

学長メッセージ

～ 想像力こそ必要 ～

人生の醍醐味は己の見定めた道を歩みゆく幸福感だと思います。日本語学を人生の核心として私は文と文法の本質について考究し続けてきました。

さまざまに意味を持つ単語の集合体として一定の情報を得たものを文と呼びます。文はコミュニケーション・ツールであり、これにより人類は社会生活を営むことができます。文の構成にはルールがあり、これが文法です。文法を逸脱すれば文は完成せず、文も文の情報も混乱して文とは呼べなくなります。

人類は誰も、自らの環境から本能的に母語の文法を体得して母語を獲得し、やがては知性により他言語の文法をも理解します。第二言語の獲得は知性の賜物であり、それは文法の理解に基づいています。それほど重要な文法は文において視覚的ではなく、目に見えないところに存在します。文は文法に支えられてしかるべき情報となる一方、文そのものは文法を問うものではありません。文法は文において死活的に重要ですが、裏方であり、すなわち文法は文を知性で読み解いた結果です。

目に見えない文法を発見し説明する知性が想像力です。文法を考えるにも捉えるにも必要な能力は想像力です。目に見えない文法だからこそ想像力が必要です。近年は日本の若年層の読解力が衰えているのではないかと危惧されており、文章を正しく読む能力の獲得が教育の課題となっています。ただし、わかりやすい文章を正しく読むことが読解ではありません。深みのある文章の意図や味わいのある文章の企みを把握することが「読解」であり、それは想像力にかかっています。想像力は勝手に妄想することを意味しておらず、与えられたものをいかに重層的に解釈できるかという洞察力に他なりません。論理的に読む能力さえも想像力に支えられています。想像力がないと文学作品は楽しめませんが、文章を過不足なく読むことも難しくなるのです。行間を読まないで文の読解はスムーズに運ばません。少しでも奥行きのある情報交換になると想像力が不可欠です。

おそらく想像力は人類にこそ与えられたありがたい能力です。大げさに言えば、想像力を持たずして人類と名乗ることは許されません。想像力があれば思いやりを持てるし、理想も描ける。人類の課題として「想像力」の育成を重視しなくてはならないと考えています。幼児期の読み聞かせも青少年の読書も、確実に想像力を育みますが、さらに何があるか、どうすればよいか、と、広く地道に深く真摯に追求し実践していくことが教育の使命です。

令和2年4月1日

熊本県立大学 学長 半藤 英明